

プロジェクト情報

- 国名：ナイジェリア
- 事業名：地方給水改善計画（無償資金協力）
- 協力期間：2012年から2014年
- 相手国機関：連邦水資源省

1. ジェンダー視点から見たアフリカの水の状況

アフリカの多くの国では、女性と女兒が水汲みの仕事の90%以上を担っていると言われていています。また、ナイジェリアの村落部では、村落内に飲料水の水源がない場合、水源まで平均30分以上かかります。水汲みは重労働であると同時に、水汲みに費やす時間によって、彼女たちの教育や経済活動への参加の機会が狭められています。また、女性は、家の内外での水の利用と管理について大きな役割を果たし、知識と経験を蓄積してきました。このような知識や経験があるにもかかわらず、伝統的価値観と慣習から、女性が水などの自然資源の利用や管理の方法について決定する権限は限られています。実際の利用者である女性たちが公共の場において給水施設の設置場所や種類などの決定に関わることができず、給水施設が使いにくい場所に設置される等、安全な飲料水が持続的に供給される機会が損なわれています。

2. ジェンダー視点から見た給水事業の効果

これまでにJICAがアフリカで実施した、井戸等の給水施設の建設・整備の事業では、住民への聞き取り調査から、水汲み時間が減少していることが確認されています。ほとんどの場合、それは、女性や女兒による水汲み時間です。水汲み時間の減少の結果、子どもが学校に行く時間が増え、特に女兒の就学率が上昇したという事業もありました。また、水汲み労働の減少で、女性による現金収入を目的とした菜園や手工芸品作り等の経済活動やコミュニティ活動が活発化したという意見も住民から聞き取られました。

3. プロジェクトの背景・概要

ナイジェリアでは、人口増加の影響等により、安全な飲料水にアクセスできる割合は、1990年の49%から2004年には48%へと悪化しています。特に、都市部(68%)に比べて、村落部(31%)では低い水準となっており、給水施設を持たない村落が多く、浅井戸や湧水等の不衛生な水の利用によって下痢症やコレラなどの水因性疾患が蔓延するなど、安全な飲料水の供給が緊急の課題です。

こうした状況の中、「地方給水改善計画」は、特に給水率の低い5州（ケツビ州、ナイジャ州、タラバ州、オンド州、エヌグ州）を対象に、井戸掘削・探査のための資機材の供与に加え、機材操作指導を行いました。同時に、

井戸建設計画のための掘削計画・データ管理・機材維持管理および給水施設の運営維持管理体制の強化を支援しました。これにより、合計500カ所（各州100カ所）の給水施設が建設され、新たに約13万人に対する安全な飲料水の供給に寄与しました。

4. ジェンダー視点に立った取り組み

アフリカの水分野においては、2011年にアフリカ水閣僚評議会が「アフリカの水分野におけるジェンダー主流化戦略」を発表し、それに基づきナイジェリアの連邦水資源省にジェンダーユニットが設置されるなど、政策分野でのジェンダー視点に立った取り組みが行われてきています。

プロジェクトでは、給水施設の運営・維持管理体制強化への支援の一環として、モデルの村を選んで、村落水衛生委員会（以下、委員会）の組織化の支援を実施しました。維持管理のために設立される委員会の役割には、手押しポンプの管理やその周辺を清潔に保つことに加えて、部品の購入費等のための手押しポンプ維持管理費の管理なども含まれます。

女性が水汲みに大きな役割を果たしている現状およびナイジェリア政府の政策を受けて、プロジェクトでは女性の参加を推進し、10名程度の委



員会のメンバーのうち、4~5名は女性とすることになっています。ナイジェリアでは、地域によって女性の社会参加の度合いは異なりますが、タラバ州のモデル村の中に、イスラム教徒の村で、女性が地域活動へ参加したり活動内容について決定したりする機会が非常に限られている村がありました。そこでもプロジェクトの働きかけによって、女性が委員会のメンバーに含まれました。

委員会のメンバーの中でも、手押しポンプ世話人は、男性は仕事や出稼ぎなどで家を空けることが多いため村にいた時間が長いという理由で、女性の方が望ましい、とされています。例えば、手押しポンプが故障した際にも、世話人が、実際に水汲みをする女性であれば、素早く修理の手配を考えると考えられます。また、会計も女性が担っている場合があります。

給水事業は、男性と女性の両方が参加することで、持続的な活動となる可能性が高まり、事業の効果もあがります。また、水資源の管理への参加を通じて、女性のコミュニティでの発言権も強まります。